

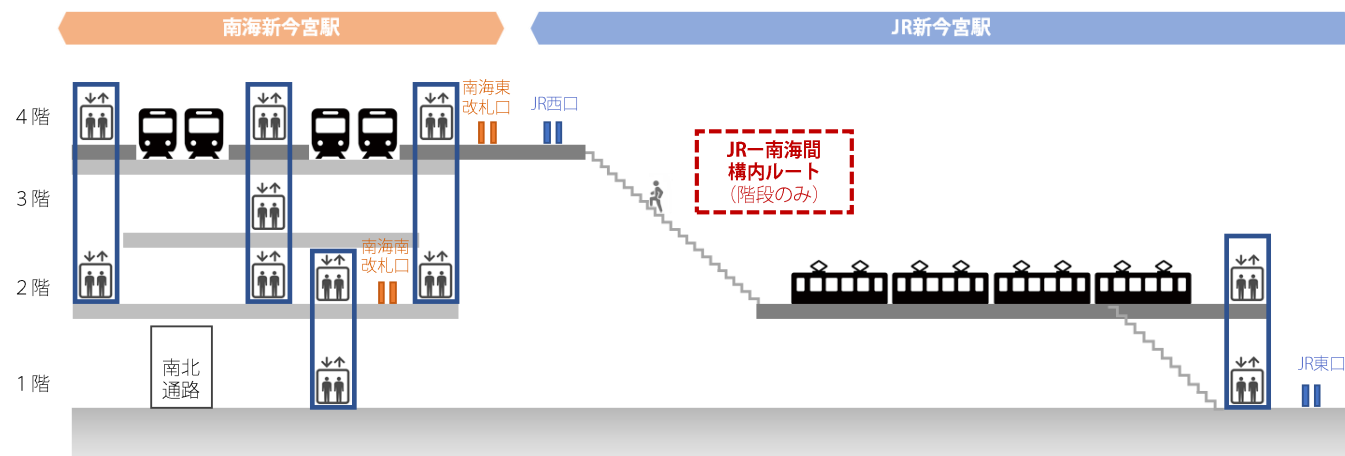
新今宮駅のバリアフリー化等

乗換客の多いJR－南海間の構内ルートは階段しかなく、バリアフリー対応が求められている一方、新今宮駅および周辺には大規模な駅改修を行う場合に必要用地がない状況です。

大阪市新今宮地区交通バリアフリー基本構想（平成16年4月策定）では、乗り換え経路の確保について、「JR新今宮駅は、ホーム幅が狭く階段がホーム端にあるなど、エレベーターの設置は、相当大規模な工事となり、実現可能性も含め詳細な検討が必要であるが、南海電鉄への乗り換え経路の確保について引き続き検討を行う」と記載されています。

また宿泊施設等の建設・開業が進む駅北側に面した出入口がないことや、駅北側と南側をつなぐ高架下の歩行者通路（南北通路）が暗く通りづらいこと、また駅舎が古く景観を損ねていることも課題となっています。

新今宮駅 断面イメージ



JR～南海間の構内ルートの様子



南北通路の様子



駅舎の様子

(3) 地域の方々の思い

【アンケート調査の実施】

■調査の趣旨

- まちづくりビジョンの策定にあたり、近年のまちの変化に対する意識や今後のまちづくりへの考え方を把握するため、当地域にお住まいの方や事業を営まれている方を対象に、アンケート調査を実施しました。

■実施概要

調査区域	恵美須西1丁目～3丁目 戒本町1丁目～2丁目
調査方法	郵送による送付・回収
調査期間	令和元年11月18日(月)～11月29日(金)

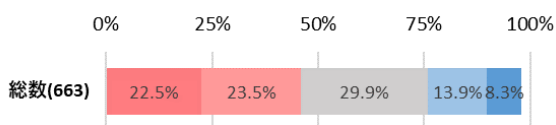
配布数	6,226通
回収数	663通
回収率	約10.7%

■調査結果

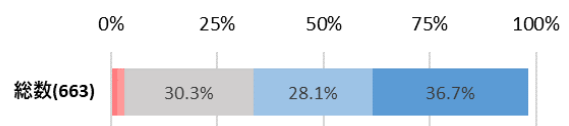
まちの変化に対する考え方

- 「まちを訪れる人が増えていること」「まちの治安」については肯定的な意見が比較的多く見られました。
- 一方で「ホテルやゲストハウスが増えていること」「まちの環境美化」については否定的な意見が比較的多く見られました。また「子育て世代が減っていること」については、半数以上の方が否定的に捉えていることが分かりました。

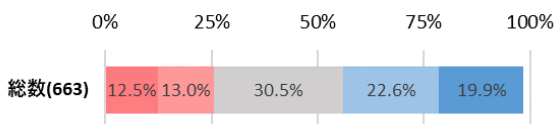
Q1：まちを訪れる人が増えていることについて



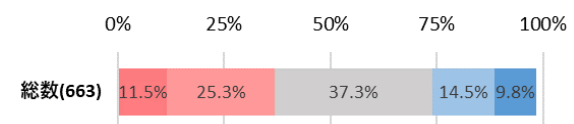
Q2：子育て世代が減っていることについて



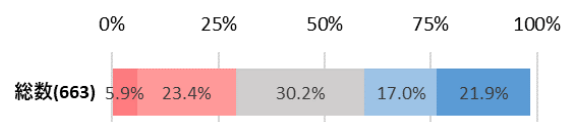
Q3：ホテルやゲストハウスが増えていることについて



Q4：まちの治安について



Q5：まちの環境美化について



【凡例】

- 良くなった ■やや良くなった ■どちらとも言えない
- やや悪くなった ■悪くなった

優先すべき取組

- 最も多くの方が選択したのは「防犯対策の強化」で、「歩きやすい道の整備」「乗り降りしやすい駅への改良」がそれに続く結果となりました。
- 属性別にみると、上記の優先順位は、居住者・事業者別、年代別に見ても大きな差は見られませんでした。一方、子育て世帯に着目すると、「歩きやすい道の整備」と並んで「恵美公園の整備」が最も多く、全体とはやや異なる結果となりました。

全体（663人）	属性別
1. 防犯対策の強化（51%） 2. 歩きやすい道の整備（44%） 3. 乗り降りしやすい駅への改良（35%） 4. 駐輪場の再編（27%） 5. まちを訪れる人や地域住民が利用できるお店の誘致（23%） 6. 線路沿いのフェンスの撤去（19%） 7. 恵美公園の整備（17%） 8. わかり易い案内表示（看板の多言語表示）の設置（13%） 9. その他（12%） 10. まちを訪れる人のための観光案内所の整備（10%）	居住者・事業者別 ※居住者兼事業者は両方に含む 居住者（618人） 1. 防犯対策の強化 2. 歩きやすい道の整備 3. 乗り降りしやすい駅への改良 事業者（179人） 1. 防犯対策の強化 2. 歩きやすい道の整備 3. 乗り降りしやすい駅への改良 子育て世帯（43人） ※20～40歳代の子どもがいる世帯を対象 1. 歩きやすい道の整備・恵美公園の整備 3. 防犯対策の強化 年代別 40歳未満（135人） 1. 防犯対策の強化 2. 歩きやすい道の整備 3. 乗り降りしやすい駅への改良 40歳～60歳（174人） 1. 防犯対策の強化 2. 歩きやすい道の整備 3. 乗り降りしやすい駅への改良 60代以上（289人） 1. 防犯対策の強化 2. 歩きやすい道の整備 3. 乗り降りしやすい駅への改良

自由回答

- 自由回答では、「環境美化」に関する回答が最も多く、次いで「観光客等のマナー対策」に関連する回答が多く見られました。また「歩行者環境の改善」「駐輪対策」「治安・防犯対策」「駅やまちの明るさ改善」に関連する回答も複数寄せられていました。

自由回答で記載の多かった項目 (回答数の多い順に記載)	主な回答例
環境美化	・ゴミの不法投棄を取り締まってほしい。 ・清潔感がないので、新たなミナミの玄関口にふさわしい街並みとして欲しい。
観光客等のマナー対策	・観光客のマナー（広がって歩く、歩道にたむろしている、ゴミを捨てる等）の悪化を気にしている。
歩行者環境の改善	・大きなスーツケースを持った観光客とすれ違う時にぶつかって危険。
駐輪対策	・自転車が悪魔でペビーカーで通るのが大変。
治安・防犯対策	・街灯を増やしパトロールを強化してほしい。
駅やまちの明るさ改善	・新今宮と恵美須町のつなぐ線路の高架下にお店やコンビニを入れて治安UPや明るくする。

3. めざすべきまちの姿

(1) まちの将来像

前章で見たように、当地域は交通利便性が高く、周辺には多様な地域資源が存在する恵まれた立地にあります。近年ではインバウンドをはじめとした来街者の増加に伴い、宿泊施設等の建設など土地利用の変化が進んでおり、広域ミナミの中心として、なんばや新世界、天王寺・阿倍野との賑わいをつないでいくことが期待されています。また、新今宮駅の南側では西成特区構想が推進されており、今後、駅の北側と同じくまちの様相が変化するにつれ、駅の周辺が区をまたいだ新今宮エリアとして一体的に注目を集めていくことが見込まれます。

一方で、地域住民の約8割は単身居住であり、高齢化が進行しています。また新今宮駅周辺は歩行者が歩きづらい場所が多く、乗換動線の強化等に向けた駅改修への対応も求められています。

このようなまちの特性・課題や地域の方々の想いを踏まえ、新たな大阪の玄関口として、国内外からまちを訪れる方々や、このまちで活動しようとする人を迎え入れるとともに、地域住民の方々にとって住みやすいまちとするため、まちの将来像を以下のように設定します。

**新たな大阪の玄関口となる
「訪れてよし・住んでよし」のまち**

(2) まちづくりの目標

まちの将来像の実現に向けて、まちを訪れる人、住む人それぞれの視点を重視し、まちづくりの目標を以下のように設定します。

1 なんばや天王寺・阿倍野まで賑わいがつながり、 楽しく観光・回遊できるまち

交流軸に沿った歩行者空間の改善や賑わいの創出などにより、なんばや天王寺・阿倍野との賑わいがつながり、広域ミナミの中心として、インバウンドをはじめとした来街者が楽しく快適に観光・回遊できるまちをめざします。

2 良好な環境のもと、世代や国籍を越えて人々が共に暮らし、 チャレンジできるまち

歩行者空間の改善や新今宮駅の改良、公園整備などを進めることにより、子育て世代から高齢者まで様々な世代が住みやすく、地域住民や来街者、このエリアを拠点に活動する人々が共存し、チャレンジできるまちをめざします。

4. まちづくりの方向性

まちの将来像およびまちづくりの目標を実現するため、交通量調査を踏まえてまちの動線イメージ（通りの性格付け）を設定するとともに、新今宮駅北側において今後取り組むべき内容を「まちづくりの方向性」として以下に示します。

① 快適な歩行者空間の創出

- 歩道沿いフェンスの撤去・美装化（南海高架下、JR高架下等）
- 回遊性や生活動線を考慮した歩行者空間の検討・整備
- 駐輪場の移設

② 玄関口にふさわしいおもてなし環境づくり

- 南海新今宮駅高架下空間の利活用

観光案内機能（コインロッカー、Wi-Fi環境、多言語対応の案内サイン等）、賑わい・飲食機能の誘致、南北通路の美装化と賑わいづくり

- 官民連携による地域の魅力向上

エリアブランドの向上、プロモーションの実施、着地型観光プログラムの開発と提供、外国人材育成やビジネス・交流の活性化や多言語による観光客へのマナー啓発

③ 交流軸に沿った賑わい・憩い空間の創出

- 南海新今宮駅高架下空間の利活用〔再掲〕
- なんばや天王寺・阿倍野とつながる賑わい・憩い空間の創出
- 恵美公園の拡張整備
- 賑わい創出に向けた社会実験の取組

④ 乗換動線の強化等に向けた駅改修の方向性の決定

- 新今宮駅（JR－南海間）の乗換ルートのバリアフリー化等の方向性の決定（道路空間の活用検討を含む）

⑤ 駅周辺における適正な放置自転車対策

- 将来的な駅改修等に伴う放置自転車対策のあり方検討
- 駐輪場の再編・整備